

「門真市自転車安全利用に関するマナー条例」を制定

28年1月1日施行

問合せ先 まちづくり推進課 ☎06(6902)6642

28年1月から、「門真市自転車安全利用に関するマナー条例」が施行されます。条例では、自転車の安全利用に関する市や自転車利用者等の責務のほか、利用者の運転マナーなどについて定めています。

門真市内は、自転車の利用者が多く、市内の交通事故件数のうち、自転車事故の割合は約3割と高い水準です。最近では、自転車による交通事故で高額な賠償を命じられる事例も発生しています。

誰もが安全・快適に道路を通行できるように、自転車利用者のマナー向上、自転車事故の減少をめざします。

自転車 自転車の安全利用のポイント

- ◆自転車の日常点検と整備
 - ハンドルは前輪と直角にしっかり固定されていますか
 - ライトは十分に明るいですか
 - ブレーキは前後輪ともよくきいていますか
 - タイヤは空気が入っていますか
 - ベルは鳴りますか
 - サドルはしっかり固定されていますか
- ◆わずかな時間でも、施錠を忘れずに
 - 盗難に強いシリンダー錠の取り付けや二重ロックを行いましょう。
- ◆ひたたくり防止カバーを装着しましょう
 - ひたたくり被害の大半は、前か

ごからのひたたくりです。ひたたくり防止カバーで防ぎましょう。

◆自転車損害賠償保険などに加入しましょう
自転車と歩行者、または自転車同士の事故は増加傾向にあり、被害者への損害賠償額も高額となっています。
自転車損害賠償保険は、傷害保険、火災保険、自動車保険などの特約として契約したり、コンビニやインターネットなどで加入できるものもあります。自転車安全整備士がいる自転車安全整備店で点検整備を受けると貼付される「TSマーク」にも、傷害保険と賠償責任保険が付帯しています。

自転車 条例の概要 ※詳しくは市ホームページに掲載

市の責務（第3条）

自転車の安全利用に関する教育、啓発、指導、地域における活動支援、道路環境の整備を行う。

事業者の責務（第7条）

従業員に、第4条の周知および自転車の安全利用に関する教育や啓発・指導に努める。

自転車利用者の責務（第4条）

- 道路交通法などの法令を遵守
- 歩行者の安全確保
- 車道は左側通行
- 傘をさして運転しない
- 携帯電話やイヤホンを使用しながら運転しない
- 灯火・反射器材の装着、盗難防止、ひたたくり防止カバーの着用、自転車の定期点検、自転車事故の損害賠償保険などの加入に努める



自転車販売業者の責務（第8条）

自転車購入者に、第4条の周知、灯火・反射器材の装着、自転車事故の損害賠償保険などの情報提供に努め、制動装置を備えていない自転車を販売してはならない。

学校・保育所等の責務（第10条）

通学・通所する者に対し、自転車の安全利用に関する教育や啓発・指導に努める。

市・警察署への協力（第11条）

自転車利用者、保護者、事業者、自転車販売業者、学校などは、市や警察署による自転車の安全利用に関する施策への協力に努める。



保護者の責務（第5条）

13歳未満の子に対し、ヘルメット・レインコートの着用、自転車の安全利用に関する教育や指導に努める。

自転車 自転車安全利用五則を守りましょう

① 自転車は、車道が原則、歩道は例外

道路交通法では、自転車は軽車両と位置付けられています。歩道と車道の区別がある所では車道通行が原則です。



② 車道は左側を通行

自転車は、車道の左側に寄って通行



③ 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行

歩道では、すぐに停止できる速度で走行し、歩行者の通行を妨げる場合は一時停止



④ 交通ルールを守る

- 飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
- 夜間はライトを点灯
- 交差点では信号を守り、一時停止と安全確認



⑤ 子どもはヘルメットを着用

児童・幼児は乗車用ヘルメットを着用



ものづくり展示会技術をPR



古谷鉄工所と航空機部品との出会いは、バブル崩壊後。自社の強みを生かせる新分野を模索していた時に、航空機関連のセミナーに参加したのがきっかけでした。少人数の企業でも、航空機部品を製作しているという聞き「自社でも挑戦できるのでは」

航空機部品への道のり

門真市内に国産ジェット機MRJ（三菱航空機が開発している国産初のジェット旅客機）の仕事に携わっている企業があります。「株式会社古谷鉄工所」です。もともと、金属の塊を削り、大きさと精密さが要求される船舶用のバルブや、車両部品などを製作していました。MRJの初飛行に注目が集まる中、航空機部品に携わったエピソードを紹介します。

フラッシュ門真DEものづくり25

株式会社 古谷鉄工所

(三ツ島5-7-27)

今後の古谷鉄工所

「航空機部品の加工メーカーとして頼られる存在となり、安定供給を続けていきたい。また、お客さまに必要とされる企業になると同時に、世界に勝てるぐらいの競争力をつけたい。さらに、事業拡大を見据え、設備の増強と、従業員の確保を進めていきたい。」と西川専務は、この先の展望を話します。



今後の展望を話す西川信之専務

と考えました。その後、近畿経済産業局の支援事業「関西国際航空機参入プログラム」に参加し、大手航空宇宙機器メーカーとの関係が始まりました。航空機関連事業を手掛ける企業は、「JISQ9100」の認証を例外なく取得しています。この認証は、最も高度な品質管理が必要な航空宇宙分野への参入には不可欠の規格で、難易度が高く、10人規模の加工メーカーが取得すること自体が極めて珍しいことでした。しかし、社員一同が休日返上し、努力を重ねた結果、古谷鉄工所は短期間でこの認証の取得に成功。社内の開発・生産体制を強化し、民間航空機市場への参入を果たした日本初の中小企業グループ「Japan AeroNet Work」の一員として、航空機関連の仕事で技術力をあげ、MRJの仕事につながりました。

航空機部品に携わって

航空機部品は品質要求が高く、困難な加工を伴う材料が多く、当り前に使われています。しかし、難易度の高い加工に取り組みことで、社員の意識は確実に変わり、対応力が格段に高まった。」と、古谷鉄工所の西川信之専務は話します。その言葉どおり航空機部品の受注アイテム数も増え、より精度の高い金属加工が可能となっています。



三菱リージョナルジェット(MRJ)